改憲手続き法案
参議院で廃案に

―――――問題点いっぱい!―――――
拙速審議はやめろ――――!

改憲手続き法案（国民投票法案）をめぐっていま、6月23日の会期末まで国会情勢が緊迫しています。

4月13日、政府と自民党・公明党の与党は、すでに提出していた改憲手続き法案を「修正」し、衆議院で強行通過させました。多くの国民の「拙速に決めずに問題点を明らかにして十分議論を尽くせ」の声に耳を傾けず、なりふりかまわない姿勢で参議院でも一気に強行成立を画策しています。4月から5月が大きなヤマ場です。廃案に向けてとりくみを強めましょう。

こんなにある問題点

修正された法案も問題点がいっぱいです。公聴会でも「拙速審議をするな」の声が圧倒的です。

「最低投票率」を定めていません

与党の修正案には「最低投票率」を定めていません。各地で行われてきた住民投票では「最低投票率」があります。法案では、国民投票は有効投票の過半数の賛成で承認。計算すると全有権者比で2割程度の賛成でも憲法改正が可能になります。国民投票という重大問題では「国民の2～3割程度の賛成では憲法改正という意思にならない」というしくみが必要です。

（例）18%の賛成でも過半数
投票率40%　うち白票・無効票10%
有権者総数×0.4（投票率）×0.9（有効投票数）
2分の1（過半数）＝0.18
18%の賛成で憲法改正

公務員の運動規制は不当です

法案には公務員や教員の「地位利用」による運動禁止が入っています。また、刑事罰をともなう公務員法上の「政治活動の禁止」を、国民投票にも適用するといいます。まったく不必要なものです。すべての国民が主権者として自由に議論し、運動もできることが憲法の原理に合致しています。

あまりに短すぎる投票期間

国会が憲法改正を発議してから投票日までの期間を、法案は「60日以後180日以内」としています。これだけ大事な問題を、国民が十分に考え、語り合い、議論し、自分の意思を決めるには、最短で2カ月とはあまりにも短期間です。

大阪での地方公聴会 相つぐ批判と疑問

3月28日にひらかれた大阪での公聴会でも、法案の拙速な審議を懸念し批判する声があいつぎました。意見陳述した4人の陳述人のうち、吉田英司さん（関西大学教授）は、「公務員の投票運動を規制するのは国民的議論を抑えるもの。憲法違反の疑義が多く残されている」と指摘しました。また、中北龍太郎さん（弁護士）は「少数の賛成で憲法の改正が承認される危険性がある」と強調、中野寛成さん（前民主党衆議院議員）も「法整備の必要性はあるが、拙速な審議は避けるべき」と述べています。

「松下プラズマ偽装請負争議」4月26日に判決
吉岡力（つとむ）さん裁判の勝利へご支援を

プラズマテレビを製造している松下プラズマディスプレイ（株）の偽装請負が発覚し、是正をもとめて立ち上がった吉岡力さん。会社は吉岡さんを隔離したうえで、吉岡さんだけの仕事をさせ、会社の社内報や健保ニュースも渡さないなどのいやがらせを続け、雇用期間を5ヶ月と限定して2006年1月に不当にも解雇しました。

「必ず勝利判決を」と吉岡さん

不当な解雇を撤回し、職場に戻すことをもとめ2006年9月に大阪地裁に提訴し、闘ってきた吉岡さんの「松下プラズマ偽装請負争議」の裁判が、4月26日に判決を迎えます。不当解雇撤回させ裁判の勝利に向けて「吉岡さんを職場にもどす会」や「争議支援共闘会議」も結成され、裁判の傍聴や署名、カンパなどの支援を訴えてきました。3月26日には国労大阪会館で学習決起集会がひらかれ、多くの仲間が支援にかけつけ、裁判勝利へのご支援を訴えました。

今月のキーワード

教育改革関連三法案

政府・文部科学省は、昨年秋の教育基本法改悪に続いて、この通常国会では、その具体化として、学校教育法、教育職員免許法、地方教育行政法の三法の改正案を提出しています。この三法案は、憲法の諸原則に反して、教育への国家の介入を強めるという重大な問題をもっています。これらの改悪がされると、教育現場でおこっているさまざまな問題や困難が解決されるどころかいっそう子どもと教職員にかかってきます。

シリーズ
ここに闘いあり 10
イラク戦争4年3・20大阪集会

「イラクから米軍も自衛隊も撤退を」

3月20日、イラク戦争4年のこの日、全国各地で。「3・20集会」がひらかれました。大阪では、森之宮ピロティホールに府下から800人が集まりました。集会では、今もなお戦火の続くイラクの状況を、ジャーナリストの西谷文和さんがDVDの映像で紹介し、「NO!WAR」の人文字が会場にあざやかに浮かびました

元共同通信記者の仲晃さん（日本ジャーナリスト懇話会会長）が講演しました。「米軍も自衛隊もイラクから撤退を」の思いが集会の参加者に広がりました。

集会のしめくくりは、参加者全員による会場内での人文字。参加者はカラーパネルを頭上高く掲げて、あざやかに「NO!WAR」の人文字を浮かび上がらせました。戦火の続くイラクに思いを寄せ、一日でも早い平和への願いを込めた人文字になりました。

イラクでは毎日100人以上の人間の命が奪われています

イラク戦争以降、何度もイラクに入り、取材を続けているジャーナリストの西谷文和さん。「いま内戦状態のイラクでは毎日100人以上の人間の命が奪われています。電気は毎日数時間しか通電せず、きれいな水も供給されないため疫病がでています。イラク戦争でのイラク人の犠牲者は65万人ともいわれています。米兵は3000人以上。この戦争を終わらせるにはアメリカ軍の撤退しかありません。宗教間の対立を意図的にあおっているのも米軍。世界の人々が、『無法な戦争をやめろ』と声をあげることで、一日でも早い平和なイラクになると思います」

悪魔の兵器「劣化ウラン弾」残虐な「クラスター爆弾」

「イラクの子どもを救う会」の活動をおこなっている西谷文和さん。残虐な劣化ウラン弾、クラスター爆弾を告発します。「劣化ウラン弾」は対戦車用につくられた兵器。劣化ウランは地球上でもっとも重くて堅い金属で、戦車をも突き破って爆破。1991年の湾岸戦争で米軍が使い、300トン以上のウランをイラクの大地にばらまきました。飛散したウランが人間の体内に入り健康を侵していくのです。「クラスター爆弾」はぶどうの房のように、1個の親爆弾の中に数百個の子爆弾が詰まっており、子爆弾から飛び散る鉄片で多くの人間が傷つき殺されるのです。子爆弾のうちの多くは不発弾として大地に残されたままで、いつ爆発するかわかりません。非人道的で残虐な劣化ウラン弾やクラスター爆弾などを早急に使用禁止にさせなければなりません。

今月のキーワード

全国一斉学力テスト

文部科学省が4月24日に全国いっせいに行う行政調査。小学校は6年生、中学校では3年生全員が対象になっています。国語、算数（数学）の学力テストと同時に、「予備調査」の名で、家庭内やプライバシーに関わるアンケートを行う予定です。学校を序列化しランクづけするもの、国や企業が個人情報を把握できることなど、多くの問題が指摘され、反対の声が広がっています。全国の公立小・中学校では、愛知県犬山市の教育委員会が参加しないことを表明しています。